

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)アサマコーポレーション相模原新研究所計画	階数	地上3F
建設地	相模原市緑区橋本台一丁目1-7,2212-2	構造	S造
用途地域	工業地域、指定なし	平均居住人員	80人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,916時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2016年1月28日
敷地面積	2,906㎡	作成者	株式会社佐野建築研究所
建築面積	1,669㎡	確認日	-
延床面積	4,536㎡	確認者	-



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO2/年・m2)

②建築物の取組み 79% (46 kg-CO2/年・m2)

③上記+②以外の 79%

④上記+ 79%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 企業の研究所として、シンプルで機能的な平面構成とするとともに、鉄骨ラーメン構造、乾式間仕切壁の採用により、将来の取り替えにも対応できるよう計画している。また、来客用エントランスと社員用エントランスを分けることで、交差のない動線計画とセキュリティに配慮している。	その他 特になし	
Q1 室内環境 研究室がガラス間仕切を採用し、見学者から研究風景が見えるオープンな空間としている。また、中庭や風光ボイドを計画し、自然通風、採光が確保できるように配慮している。個別空調とし、細かな制御ができるよう配慮している。	Q2 サービス性能 エントランスホールやギャラリーは中庭に面し、吹抜けを設けることで明るく快適な空間としている。社員が一同に会える講堂の設置や、3階食堂・ライブラリを屋外テラスに面して計画することで、コミュニケーション、リフレッシュ空間に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 屋上設備スペースの目隠しバルーン設置やシンプルな色彩計画とすることで景観に配慮している。北側住宅地側は生垣による目隠しを行っている。東西側はマルチバルーンを設置し、外壁やバルコニーのメンテナンスを容易にできるように配慮している。
LR1 エネルギー 屋根外断熱、外壁内断熱及び複層ガラスを採用し、建物断熱性能を確保している。また、中庭や風光ボイドにより自然通風、採光を確保し、東西面に日射遮蔽を兼ねたマルチバルーンを設置している。設備は個別空調、全熱交換機、LED照明、人感センサーの採用により、省エネルギーに配慮している。	LR2 資源・マテリアル 節水型の衛生器具の採用による水資源の保護に配慮している。また、清掃性、耐汚性にすぐれた床材の採用などメンテナンス性に配慮している。	LR3 敷地外環境 建物は3階建とし、極力周辺への日影の影響が少なくなるよう配慮している。また西側道路へ歩道状空地を設け、歩行者の安全確保に努めている。外構には雨水浸透施設を設置し、雨水流出抑制対策を施している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除いた年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される